

# 認知したいじめを速やかに解消した事例12（高等学校第2学年女子）

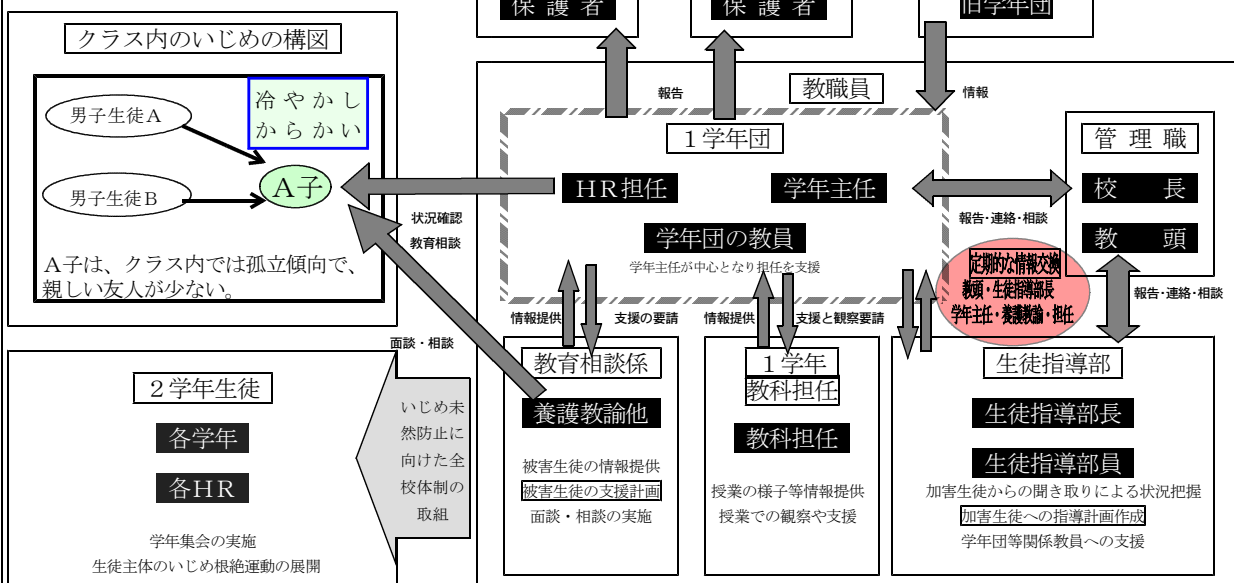
## ～学年団を柱とした組織的な取組～

### 問題の把握

6月上旬に実施したいじめアンケート調査で、2年生の女子生徒から、クラス内で笑われたり、冷やかされることがあり、特に、特定の男子生徒からの冷やかしかや嫌がらせがひどく、耐えられないとの訴えがあった。アンケート結果を受け、学年団と生徒指導部が連携し、速やかに加害生徒の特定と指導が行われた。

### 対応状況

○ 関係図及び対応図



### 状況の把握

アンケート調査の結果から、HR担任を中心に、周辺情報の収集を行い、教育相談係の協力も得ながら、被害生徒への面談を実施、心のケアに努める。

### 指導方針の決定

収集した情報に基づき、当該学年団と生徒指導部が連携を図り、課題や問題点を整理しながら、指導体制を整える。教頭・学年主任・生徒指導部・教育相談係の会議を開催する。

### 即時対応

HR担任及び学年主任は、A子の家庭へと連絡するとともに、A子への教育相談を開始する。学年団が主体となり、学年集会を開き、学年への指導を行う。

### 中長期対応

担任及び養護教諭は、継続的にA子のケアを行う。教科担任と連携し、学年団における人間関係など、継続的な観察に努める。

### 事後の対応

生徒指導部が中心となって、昼休みに校内巡回を実施し、現状の把握を行う。また、教科担任とも連携を図り、授業の様子など、事後の状況把握に努める。

### 未然防止

生徒指導部が中心となり、いじめは絶対に許されないことや、人間関係づくりについて、生徒一人一人に考えさせる機会を設け、生徒主体のいじめ根絶運動を展開する。

### いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・担任を中心とした面談等を通して適切な人間関係づくりについて指導し、クラス内の人間関係の修復に努める。
- ・生徒の人間関係の把握と教職員間の共通理解にもとづいた生徒指導を推進する。